

令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 蛸島地区 協議記録

日 時	2025 年 11 月 27 日（木） 18:00～19:40
場 所	蛸島小学校

参加者： 43 名

【開会のあいさつ】

梧区長会長：

地区別プランに関する意見交換会である。皆さんの忌憚ない意見をお願いしたい。

堺議員：

今回の地区別意見交換会では、蛸島町まちづくり協議会をはじめ、皆様からのご意見が多数あると思う。市長をはじめ、市の職員の皆様には、質問に対して、ゆっくりとわかりやすく説明していただければと思う。

市長：

発災からもうすぐ2年が経とうとしている。蛸島町における公費解体はかなり進んでおり、集計上は残り3棟となっている。町並みが大きく変わって行く中でも、蛸島町ではキリコ祭が行われ、早船狂言も昨年に引き続いて行われた。皆様の復興に懸ける思いに応えるためにも、しっかり復旧・復興を進めていく。

蛸島町の「新たなまちのかたち」については、蛸島町まちづくり協議会で議論を重ねていただいている。皆様の思いにできるだけお応えし、実現できるよう、共に進めていきたいと考えている。本日はご提案もいただきたいが、インフラ復旧や、蛸島川、橋梁、蛸島漁港の復旧、今後の見通しについても説明する。また、石川県珠洲土木事務所から県事業についても説明をいただく。

復興公営住宅について、皆様の切実な思いがあると思うので、意見交換をさせていただきたい。できるだけ早くプランを固め、前に進めて、より魅力ある、安全で快適な蛸島町にしていきたいと考えている。

【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

【意見交換】

司会：

最初に、蛸島町まちづくり協議会より発言をいただく。

蛸島町まちづくり協議会：

復興公営住宅の建設予定地について、協議会として、町並みと地域コミュニティを維持するためには、市が提案している貝蔵団地、東脇団地に加え4箇所追加し、合計6箇所の復興公営住宅が必要で

はないかという考えになった。追加箇所は、事前に市役所に資料を渡している、諏訪町前之浜付近、道下石油株式会社跡地付近、資料1の候補地と同じ場所である新町、栄町の旧民宿「端」の建物前の空き地付近である。蛸島町は広いため復興公営住宅を全体に点在させたいという思いである。ただし、現実的に維持管理や予算等を含めて可能なのか伺いたい。

市長：

地域コミュニティ維持は重要だと認識している。復興公営住宅の位置はこれまでの意見交換会においても、度々意向を伺っていたところである。現在4回目の意向調査を行っており、東脇地区、貝蔵地区、新町についてはまとまった意向が確認できている。復興公営住宅の整備については、珠洲市全体で30箇所前後になりそうであり、用地造成工事に相当な費用がかかるため、財政面を考えると数を絞る方がありがたい。ただし、10戸以上まとまる意向が確認できれば検討を行うという方針である。協議会において意向のある戸数も把握されているが、意向が変わっている可能性もあるため、確認を取りながら進めたい。

蛸島町まちづくり協議会：

貝蔵地区の復興公営住宅予定地の近くに、本貝蔵地区のキリコ倉庫を建設予定である。それも考慮して建設を進めて欲しい。

道路拡幅の希望場所について、防災、避難や緊急車両を考慮し道路部会で検討した。交番の駐在交差点から光行寺さらに漁港へ続く道路の拡幅、高倉彦神社から脇浜本町へ続く浜通りの拡幅、仲脇橋から南のほう、浜まで道路を繋げていただきたい。島ノ地地区付近の復興公営住宅整備検討地域に含まれている道路の拡幅、以上の路線については、最低でも4mに拡幅していただきたいと考えている。

珠洲市：

現況道路が2m、3mの幅員で、道路認定されている箇所については、建築基準法に従って建て替え時に道路中心線から2mずつセットバックする必要がある。そのため、これから再建が進んでいくにつれ、現況4m未満の道路は、中心から2mずつ道路空間が広がっていくことになる。ご提案いただいた箇所を全て拡幅する場合、延長がかなり長い。市においても4m幅員の確保に関しては、どこを優先的に整備するかを検討しており、現在は、道路中心線がずれている区間に関し、建て替えだけではまっすぐな道にならないため、道路形状に即した復旧を優先的に行っている。避難路確保という視点で、スムーズな通行ができるようにしたいので、先ほどの要望箇所についても、現場を再度確認し、優先的にどこを整備すべきかを議論させていただきたい。

蛸島町まちづくり協議会：

消雪装置について、復旧をお願いするとともに、震災前から計画があった、高倉彦神社から海側の浜通りと、交番の駐在交差点から「うわだの坂」方面について消雪装置整備をお願いしたい。

市長：

消雪装置の新設については、震災前から計画していた箇所については進めて行く。

蛸島町まちづくり協議会：

地震の影響で子育て世帯が2/3に減った。蛸島町を離れた子育て世帯から「出ていかなければよかった」と羨ましがられるような再建を目指したい。事前に、子育て部会から質問と意見書を復興本部

へ渡したので、後日回答いただき、それを元にまちづくり協議会での議論を進め復興に寄与したい。ご回答いただけるものか。また、今後もこのような方法で行政と意見交換を進めて良いか確認したい。

市長：

意見書については本日提出いただき、今確認をしておりますが、今後とも協議を重ねていきたい。子どもの遊び場についての話があったが、現在、基本計画を策定しているところであり、皆様の意見も伺いながら進めたい。市としては、まず野々江地区で整備を計画している。施設活用等も含めて取り組んでいきたい。また、バスの補助についても、教育委員会で制度拡充し補助率を上げているが、継続して取り組みたい。

次にスポーツ施設について、市営野球場は復旧が完了し、来年はマスターズ大会の開催が予定されていることや、野球教室が開かれるなど、復興に向けた力にもなっている。健民体育館については、フロアが傷んでいるため復旧していく。蛸島地区にも大きい体育館が欲しいという思いもあると思うが、多額になり、限られている復興に向けた財源をどのように有効活用していくか、珠洲市全体として考える必要があるということもご理解をいただきたい。市営野球場については、ナイター照明の要望をいただいている。これについても、予算上可能であれば整備していきたい。

これ以外にもアスレチックや、冬に活用できる施設等の要望、旧蛸島保育所の活用といった意見もある。引き続き議論を進めたい。鉢ヶ崎ケビンについては一旦解体となるが、これに代わる施設を整備する予定である。

蛸島町まちづくり協議会：

子育て世帯への支援制度の具体的な例など、珠洲で子育てをしていくメリットが明確であれば教えていただきたい。

蛸島町をスポーツエリアとして魅力化できないかという意見が出ている。健民体育館のような体育館を市営球場付近に設置することや、アーバンスポーツのエリアとして県大会等の大会を行えるようにしたらどうか。野々江地区に集約されていることで、子育て世帯の交通の問題があり、こういう部分も解消して欲しい。

子育て世帯も何年か後には子育て世帯ではなくなるので、迅速な対応をお願いしたい。

市長：

現在、子育て世帯への支援は、学校給食費の無償化を行っている。保育園についても保育料の無償化に取り組んでいる。また、国で物価高騰対策が行われる際には、子育て世帯に手厚くなるように取り組んでいる。高市新政権が始まり、物価高騰対策として自治体に予算枠が与えられ、配分していくことになると思うが、できるだけ子育て世帯に手厚くしていきたい。

スポーツエリアについて、新設体育館となるとかなり大きな予算になると考えられる。また、健民体育館が老朽化していることもあり、観覧席のある体育館の建設も検討はしていたが、フロアの復旧を優先で考えている。現方針で進めていくべきか今後考えたい。蛸島町に同規模の体育館を新設するというのは、予算的には難しくはあるが、総合的に考えたい。アーバンスポーツについては、そういう施設があれば魅力が高まっていくと考えるが、どの程度予算がかかるのか、あるいは一定予算でどこまで整備できるかを検討していく。皆様と議論を交わしながら進めていきたい。

珠洲市を離れられた方々には戻って来て欲しい。一番大きな課題は、住まいの確保だと考えており、新築が徐々に増えていけば良いと思う。蛸島町の皆様は、お祭りも頑張っておこなっており、戻ってきたいという気持ちになるような蛸島町の復興にしていきたい。

蛸島町まちづくり協議会：

なりわい部会でも、鉢ヶ崎をスポーツエリアや、リゾートエリアとして整備してほしいという意見が出ており、野球場やテニスコートが整備されているが、宿泊施設や温浴施設が無いため、滞在できないという意見がある。宿泊、風呂、お店、土産屋が入るような施設を要望したい。また、リゾートエリアとして海水浴場、オートキャンプ場、ケビン、ホースパーク等を一体的に考え、エリアの充実を図りたいという意見も出た。観光地としての魅力向上を少しずつでも進めていけば、来訪者が増え、お店等も増えていく可能性があるのではないかと。新しい施設は、道の駅や、七尾市の食祭市場のような施設で、お食事ができたり、お土産等が販売できたりすれば良いと考える。

また、市長も仰っていた旧蛸島保育所の再整備をお願いし、再利用したい。リゾートエリアの関連として、キャンピングカー、キッチンカーが稼働している事例をよく見かける。ドッグランを整備すれば、ペット同伴の方も呼び込めるのではないかと。先ほど議題に上がった、健民体育館規模の体育館を蛸島町に整備してほしいという意見も出た。様々な意見が出る中で、一つひとつの施設を個々に整備するのでは無く、導線で繋がり面的に広がることを望む。

現在、今後の計画と、なりわい部会のスケジュールを立てているところである。ホースパークの中に「憩いの家」というレストランの計画がある。情報交換も行っており、ホースパークの運営主体や、一般財団法人鉢ヶ崎リゾート振興協会の方を巻き込んで、12月の中旬にもう一度部会を開催し、話を煮詰めていきたい。

市長：

去年の発災から半年後のタイミングで、蛸島町の皆さんから鉢ヶ崎をどうするかという相談を受けていた。鉢ヶ崎は重要な場所であり、再生して以前よりも魅力を高めたい思いである。また能登半島は、今まではドライブするだけでも気持ちの良い場所であり、それが観光資源にもなっていたが、随分状況は変わっている。これからは、稼げる観光という考え方にも取り組んでいかなければならない。鉢ヶ崎は、メインバスハウスも建物との段差が90センチ程生じ、基礎杭も傷んでおり解体という運びになるが、代替施設を整備する。ケビンについても代替施設、例えばトレーラータイプの宿泊施設なども候補とし、検討、整備を進めたい。鉢ヶ崎の美しい海は取り戻せるので、早く進めていきたい。

ホースパークについては、蛸島町の魅力を高め人を引きつける大きな柱になる。JRA 外郭団体のTAWからも支援をいただきながら整備を進めている。日本財団の支援による、みんなの家も計画されている。来訪者や蛸島町の皆様が集い、憩える場所にしていくと伺っている。

宿泊について、ビーチホテルは復旧に携わる方々が長期で宿泊している。客室稼働率が85%と高い状態であり儲かってはいる。一番厳しかった2019年は、累積赤字が1億3千万円程度あり、経営破綻寸前であった。さらにコロナにより、より厳しい状況になったが、コロナ対策として国からの補助金が出て、持ち直したところもある。2023年には芸術祭もあり、今年度の上半期終了時点で、累積赤字も1千数百万程度に縮まり、経営的には急回復している。復旧に携わる方々の長期的な宿泊がいつまで継続するかは見えないところではある。

国道249号の海岸線、大谷道路、のと里山海道、大谷・狼煙・飯田線の復旧を考えると2029年の春までが一つの区切りであり、それまでに観光のフェーズに移っていききたい。ビーチホテルは修繕する

が、それ以上に宿泊施設を増やすのは難しい。オートキャンプ場、ケビンを活用していくことも大事である。元気の湯は、復旧不可能で解体となる。ご理解いただきたい。

賑わいや地域経済については、皆様のご協力なしでは実現できない。漁協と連携して新鮮な魚を食べられるという取組みを行うとしても、施設整備は行政でできる。誰が経営するかが見えてくれば、実現化につながる。また、新しい取組みとして、陸上養殖のような事業が蛸島町でできないか。これは事業を誘致することにもなるが、模索していきたい。

ドッグランは整備できると思う。色々な意見があるかと思うが、ホースパークは新たな目玉になると思っている。鉢ヶ崎の美しい海は変わらず美しい海である。できるだけ早く再生していくことで、珠洲全体においても稼ぐ力を取り戻すという先駆けとしたい。

蛸島町まちづくり協議会：

自主防災にも繋がるということで、備蓄品の確認、補充を行うことになった。防災テントの整備やトイレ用テントも補充したいが、資金はあるのか教えてほしい。

また、高齢者が多く、車での避難が前提となるため、道路端の危険な樹木がある箇所は切り落としていただきたい。津波の時に、道路が混みあって動けなかったため、どこかに避難できる駐車場があれば良いという話が出た。整備できるようであれば、お願いしたい。

市長：

現在、備蓄の見直しを行っているところである。珠洲市全体でも備蓄を進めていくが、分散備蓄も進めたい。自主防災組織で、蛸島町で分散備蓄を検討する場合に、地区ごとに年間10万円を支給する制度があるが、それでは不足すると思う。全体で進めている計画と重複をさけるためにも、備蓄場所等について協議しながら進めたい。避難路の整備についても、枝を切る程度であれば可能な限り対応しながら、詳細についてはやり取りしながら進めたい。

副市長：

先日、社会福祉大会が開催され福井大学の酒井先生から話を伺った。関連し、正院地区で先導的に個別避難計画の避難訓練が行われた。地区防災計画は10地区で進められているが、高齢など、避難が困難な方々に自然災害が起こった際にどうやって避難させるのか、一人ひとり個別名簿を作るというのが国の方針である。元々、地区防災計画は珠洲市10地区で作成予定であったが、震災で止まっていた。福井大学の先生にも入っていただき、順次作成予定である。蛸島地区も来年から進めていくので、協力をお願いする。

市長：

復興公営住宅については、意向が集まっている箇所を予定地としている。栄町、旭町で検討して欲しいという意見もあるが、意向は多くはない。現在、第4回目の意向調査の回答が85.5%ほどであり、集計を終えていないため、結果を取りまとめながら、実際の意向と復興公営住宅の箇所数を増やした時にどうなるかの検証について、協議させていただきたい。明らかに意向が多いところは、速やかに整備に向けて取り組んでいく。整備は来年度、再来年度までかかるという状況である。

参加者：

復興公営住宅について、高齢者とお話すると自分の住んでいた地区近辺に戻りたいという話を聞くが、どのような対応を考えているか。

市長：

各区にそれぞれ整備できればよいが、珠洲市全体で30箇所、700戸整備することになっており、地盤整備と建築工事をするため予算の問題がどうしても出てくる。国からは、3/4補助が出るが、国が定めた標準建設費が基準になっている。上回る費用については市の負担になるため、場合によっては実際の建設費の1/2補助にも満たないことも考えられ、悩ましいところである。標準建設費の見直しについては、国に相談しているが、このような状況で各区に整備するのは難しく、10戸以上まとまった単位で整備するようにせざるを得ない。現在2箇所の予定地と2箇所の候補地があり、うち3箇所についてはまとまった意向があることから先行して進めたい。先ほど要望された2箇所について、希望される方が何世帯いるか、用地の確保を含めて、連携して考えていきたい。

参加者：

道路の復旧時期について、次年度以降に着手となっている路線でも、一部だけ応急的に補修する事は可能か。また、道路の境界が液状化で大きくずれている箇所は、境界がいつ頃決まるのか。

市長：

資料1に示す年度は本復旧の見通しであり、現時点で不都合な部分があれば、応急的に対応する。境界について、かほく市や内灘町でも側方流動が起こり、10数メートルのズレが生じたところもある。境界が分からなくなったところは地籍調査から行っており、それにおそらく3年程度かかる。近接地権者の了解が得られるのであれば、そのあたりは早くできるかと考える。

参加者：

道路を挟んで同じ持ち主であり、海側に20cm程ずれ、反対は狭くなっている。側溝の位置が曲がっているところがある。基点を決めてもらって、部分的に真っ直ぐ4m道路を整備してもらえないか要望したい。

市長：

面的に整備することは難しいが、個別具体的に調整する方法であれば可能性がある。

副市長：

区画整理のような事業を行わないとなると、第三者の立ち会いを得ながら、行政も立ち会って境界ラインを決めるしかない。隣接地権者との相談や、市道なら環境建設課、県道なら県の所管との立ち会いも必要となる。個別に担当に相談いただきたい。

参加者：

珠洲市は、大阪・関西万博の大屋根リングの木材で復興公営住宅を造るのか。

復興公営住宅は何階建てになるのか。2階建てだと高齢者は厳しい、不便なのではないか。

市長：

大阪・関西万博の大屋根リングの木材は、復興公営住宅50戸ほどに使う。復興公営住宅は、1階平屋の長屋タイプか、用地が足りない場合は、3階建て等でエレベーターをつけるなど、お住まいになる方に負担が掛からないような対応を考えている。蛸島町は1階平屋の長屋タイプで考えている。

参加者：

復興公営住宅について、なぜ大阪・関西万博の木材を使用しなければならないのか。運搬費等費用が掛かるのではないか。

市長：

本来は大阪まで取りに行き、加工も必要である。今回の木材提供は、坂茂氏を応援するスポンサー企業の支援もあり、珠洲市が負担する費用はない。その条件で手を挙げた。また、民間が使う場合は入札となるが、自治体だと無償で提供いただける。

参加者：

例えば、下請けや二次下請けと工事が回っていくと建築費用が嵩むことはないのか。

珠洲市：

大屋根リングを使った整備については、復興公営住宅を建てる事業者の公募を行い、設計や施工会社がその後、使用を決めていくため、下請けに行けば行くほどお金が高くなるようなことは生じないと思われる。

市長：

蛸島町まちづくり協議会で部会を分けて、しっかりと議論をされており、今後とも、まちづくり協議会の皆様と議論を重ねることで、蛸島町の「新たなまちのかたち」を検討し、蛸島町に戻ってきていただけるような、安全で魅力あるまちにしていきたい。まちづくり協議会の皆様、協議を重ねプランを策定してほしい。行政としても皆様の思いをできるだけ反映できるように取り組んでいく。

以上